

令和7年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（音楽科）

	低学年	中学年	高学年
身に付けさせたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして、思いをもって歌う。 ○楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏する。 ○音遊びやリズム遊びを楽しんだり、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくったりする。 ○音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらのよさや面白さなどを感知取って聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。 ○曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。 ○即興的に音楽をつくったり、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくったりする。 ○曲想とその変化を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取ったりして、楽曲の構造に気を付けて聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。 ○曲想を生かした表現を工夫し、意図をもって演奏する。 ○即興的に音楽をつくったり、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくったりする。 ○音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けながら曲想とその変化を聴き取る。

		低学年	中学年	高学年		
児童の実態	1 年	<ul style="list-style-type: none"> ○どの曲でも拍の流れを確認しながら、リズムや音の高さに気を付けて歌うことができるようになってきた。 ○リズムに合わせて体を動かしたり、手遊びをしたりして意欲的に音楽活動を楽しんでいる。 ○歌詞の内容に合った情景や雰囲気想像して、歌ったり聴いたりしている。 ○曲想や歌詞の表す気持ちを感じ取り、体の動きを伴いながら、楽しんで歌うことができる。 ○鍵盤ハーモニカの正しい指使いやタンギングに気を付けながら演奏しようとしている。 ○カスタネットなどの楽器を使って、拍や休符を意識してリズムを打つことができる。 	3 年	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの歌声や伴奏を聴いて、2人組から4人組、8人組などになって声を合わせて歌うことができるようになってきた。 ○それぞれの声の特徴を生かし、曲想にあった自然な歌い方で歌えるようになってきた。 ○リコーダーの学習では、音色や響きに気を付けて、音の高さに応じたタンギングや息の使い方が身に付いてきた。 ○音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴をとらえた表現を工夫しようとする児童が多くなった。 	5 年	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽づくりでは、ICT機器も活用しながらまとまりのある音楽をつくることができる。即興的にリズムをつくる活動には個人差が見られる。 ○鑑賞では、聴き取ったことや感じ取ったことについての関わりについて考えることができる児童が多いが、言葉にすることが難しい児童も一定数いる。 ○グループ活動では、グループビンゴによって活動内容や進捗の差が出てしまうので支援が必要。 ○曲想に合った声の出し方を工夫し、友達と声を合わせて歌うことができる。
	2 年	<ul style="list-style-type: none"> ○体の動きを伴う音楽活動や、様々な曲を歌うことに意欲的である児童が多くなった。 ○旋律を階名で感じ取ることに少しずつ慣れて、音の高さを意識して歌うことができている。 ○拍子の違いを感じ取ることができている。 ○範奏を聴いたりリズム譜を見たりして演奏し、思いに合った表現をするために必要な技能を身に付けている児童が多くなった。 	4 年	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱では、声の出し方や音の高さに気を付けて歌うことができているが、友達の声を聴いて合わせる意識をもてていない児童も見られる。 ○曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて自分なりの思いや意図をもつことができている児童が多いが、なかなか言葉にすることが難しい児童もいる。 ○リコーダーに意欲をもって取り組む児童が多いが、正しい指使いやタンギングが十分に身に付いていない児童が一定数いる。 	6 年	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱では、歌詞から作詞者の気持ちを想像し、イメージを膨らませながら歌うことができる。 ○音楽づくりの学習では、即興的にリズムをつくったり、まとまりのある旋律をつくったりすることができる児童が多い。 ○鑑賞では、曲や演奏のよさを見出しながら音楽を味わって聴くことができている。曲想と音楽の構造のなどとの関わりについて理解することや、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることについては、個人差が見られる。

授業改善の具体的な手立て

	低学年	中学年	高学年
	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かす・ふし遊び・リズム遊び・音遊びなどをリレー方式で全員に発表させ、一人で表現したり、互いに聴き合ったりする場をつくる。 ○リズム遊び・表現遊びにグループで取り組むことで、参加しやすい雰囲気を作る。 ○歌唱や器楽の音楽づくりに際し、曲に対して豊かなイメージがもてるよう工夫し、思いをもって表現できるようにする。 ○「今月の歌」の取り組みを通して、様々な曲に触れ、歌う楽しさや他学年の表現のよさを知り、音楽の楽しさを味わえるようにする。 ○ねらいに合わせて個人・ペア・グループなど学習形態を工夫し、適切に取り入れる。 ○音楽表現をするための基礎的な技能を身に付けられるように個別指導をする。表現に自信がもてない児童には、見本を示したり、たくさん褒めたりして、表現活動の機会を増やしたり、表現しやすい雰囲気を作ったりする。 (それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くこと) 	<ul style="list-style-type: none"> ○常時活動で、本時のねらいにあった活動(リズムリレー、ペアで拍打ち、音に合わせて体を動かす等)を行う。 ○「今月の歌」の取り組みを通して、様々な曲に触れ、歌に親しむ態度を育み、歌う楽しさを味わえるようにする。 ○電子黒板等の ICT 機器を効果的に利用し、視覚的に理解できるように教材を工夫する。 ○グループで創意工夫しながら、音楽づくりや合奏をする活動を経験させる。 ○表現や鑑賞において知覚・感受する力が弱い児童には、板書やワークシート、視聴覚教材の活用など、気付かせる手掛かりを多様に用意する。 ○一人で歌う活動を多く入れる。その際、歌ってよかったと思えるような価値付けをする。 ○表現・鑑賞活動において効果的な場面においてタブレットを活用する。 ○教材の特性に合わせて、音楽と出合わせる場面を工夫する。(写真・映像・絵を見せる、関連する音楽や同じ要素が用いられている音楽を聴かせる、教師が範唱・範奏をする等) ○児童自身が選択して活動する場面を増やし、主体的な態度につなげる。(より深く鑑賞したい部分、工夫したい部分を選ぶ、友達からのコメントの有無を選ぶ、発表の際の伴奏の有無を選ぶ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○常時活動で、本時の活動のねらいに即した活動(リズムリレー、ペアで拍打ち、音に合わせて体を動かす等)を行う。 ○「今月の歌」の取り組みを通して、様々な曲に触れ、歌に親しむ態度を育み、歌う楽しさを味わえるようにする。 ○電子黒板等の ICT 機器を効果的に利用し、視覚的に理解できるように教材を工夫する。 ○表現・鑑賞活動において効果的な場面においてタブレットを活用する。 ○歌唱・器楽ともに基礎的な技能につながる指導を丁寧に行い、自信をもって演奏できる環境づくりを行う。 ○題材を通し 1 枚にまとめたワークシートを工夫し、児童自身が学習を振り返ったり見直しをもったりして、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○音楽を形づくっている要素を意識させるように掲示物を工夫し、表現及び鑑賞における知覚・感受の手がかりとなるようにする。 ○教材の特性に合わせて、音楽と出合わせる場面を工夫する。(写真・映像・絵を見せる、関連する音楽や同じ要素が用いられている音楽を聴かせる、教師が範唱・範奏をする等)

		低学年	中学年	高学年
成果(○)と課題(●)	1年	<p>○友達と一緒に手拍子を合わせた り、聴き合ったりすることで楽し みながらリズム遊びをすること ができた。</p> <p>○グループでの表現活動を取り入 れることで、音楽活動に意欲的に 取り組むことができた。</p> <p>○鍵盤ハーモニカを演奏するとき の姿勢や指使いやタンギングな どの基礎・基本が概ね身に付け てきた。</p> <p>○鑑賞の時間において、感じたこ とや気付いたことを交流した り、楽しんで曲を聴いたりする ことができた。</p> <p>○今月の歌に全校で取り組むこと で、新しい歌を楽しむだけでな く、様々な歌い方や、みんなで 歌う楽しさに触れることができ た。</p> <p>●既習のリズムの定着（拍にのっ てリズムを打つ）に個人差が見 られる。常時活動等で適宜扱う ようにする。</p>	<p>○歌唱の活動に意欲的に取り組 むことができた。</p> <p>○リコーダーを演奏するときの 姿勢や構え方などの基礎・基 本が身に付いてきた。</p> <p>○聴き取ったこと感じ取ったこ とについて考え、自分なりの 言葉で表したり、発表したり することができるようになって きた。</p> <p>○歌唱の活動を通じて正しい音 程やリズムなどの感覚を身に 付けられるようになってきた。</p> <p>●リコーダーの指使い・息の強 さ・タンギングに関しては個 人差があり、個別に指導して いく必要がある。</p>	<p>○互いに協力し合いながらグル ープ活動を円滑に行えるよう になってきた。また他のグルー プのよさを自分のグループに 生かす場面も多く見られるよ うになった。</p> <p>○互いのパートの声を聴き合い ながら、二部合唱をすることが できた。</p> <p>○音楽づくりの発想を得たり生 かしたりしながら、即興的に演 奏したり、まとまりのある音楽 を作ったりすることができた。</p> <p>●旋律の特徴に気付くことはで きるが、正しい音楽用語を用い て説明することに課題が見ら れる。用語については適宜全体 で確認をする。</p> <p>●聴き取ったことと感じ取った ことを関連させながら自分の なりの言葉でワークシートに 書く活動に個人差があるため、 板書や友達の考えを参考にす るよう促していく。</p>
	2年	<p>○進んで見本をやったり、みんな の前で演奏したりすることに前 向きな児童が増えた。</p> <p>○曲想に合った体の動きを考えて 表現したり、みんなでダンスを したりと、体を使って音楽を楽 しむ児童が増えた。</p> <p>○表現活動において、音楽表現を 工夫し、自分なりの思いをもと うとする姿が見られた。</p> <p>○リズムや速さに気を付けて鍵盤 を演奏することができるように なった。</p> <p>●音楽づくりにおいて、自分の思 いを音にしていく際の技能に個 人差が見られるため、いくつか の楽器から自分の技能に合った 楽器を選択できるようにする。</p>	<p>○音楽と出合わせる場面を工夫 したことで、児童が新しい曲に 対して興味・関心をもって意欲 的に取り組むことができた。</p> <p>○みんなの前で1人または少人 数で歌いたいと思う児童が増 えた。</p> <p>○互いの演奏を聴き合い、そのよ さや違いを認め合う姿勢が身 に付いてきた。また、そのよさ を自分の演奏に生かす姿が多 くみられた。</p> <p>○旋律の重なりを感じ取りなが ら歌う技能が身に付いてきた。</p> <p>●音色に気を付けながら声を合 わせて歌うことが少しずつで きつつあるが、クラスによって 差があるため、聴き合う活動 を取り入れる必要がある。</p>	<p>○グループ合奏の学習では、互い に教え合いながら技能を高め たり、パートの役割を生かして 演奏したりする姿が見られた。</p> <p>○互いの演奏を聴き合い、そのよ さや違いを認め合う姿勢が身 に付いた。</p> <p>○歌詞の内容や曲の特徴にふさ わしい表現を工夫し、2つの旋 律を重ねることの美しさ、楽し さなどを味わいながら合唱を 楽しむことができた。</p> <p>○鑑賞では、演奏のよさについて 自分なりの言葉で表現するこ とができた。</p> <p>●変声した児童で、声の出し方や コントロールに困っている児 童がいる。個別に対応していく 必要がある。</p>